

# 平成22年度「食と農林水産業の地域ブランド協議会」

## 総会・シンポジウム プログラム

### ～地域ブランドの確立と継続的な事業展開～

#### 1. 趣旨

現在、各地域において、地域の農林水産業、食品産業の競争力強化や地域活性化につなげていこうとの観点から、地域ブランド化の取組が進められています。

このような農林水産物・食品の地域ブランド化の取組主体や支援者、加工・流通の関係者等が幅広く参集し、相互に情報の交換や提供、交流等を実施するため、平成19年11月に「食と農林水産業の地域ブランド協議会」が設立されました。また、農林水産省では、平成20年度から「農林水産物・食品地域ブランド化支援事業」を実施し、地域の取組主体が外部からプロデューサーを招聘して進める地域ブランド化の取組を支援しています。

このたび、当協議会の平成22年度総会にあわせてシンポジウムを開催し、地域ブランド化に向けた実践的な取組や課題解決の方策について話し合います。今年度は、今一度地域ブランド化の意義を見直し、地域ブランドの確立と継続的な事業展開に向けて必要な取組について検討します。

#### 2. 主催

食と農林水産業の地域ブランド協議会

#### 3. 日時

平成23年2月24日(木) 13時30分～17時00分

#### 4. 場所

大手町ファーストスクエアカンファレンス（東京都千代田区大手町 1-5-1 ファーストスクエアイーストタワー2F）

#### 5. 内容

(1) 総会 13:30～14:00

(2) シンポジウム 14:00～17:00

・基調講演「地域ブランドの確立と継続的な事業展開」

講師: 上原 征彦(明治大学大学院グローバルビジネス研究科教授)

・事例発表

①「祖父江ぎんなん」(愛知県稲沢市) 報告者: 愛知県尾張農林水産事務所 前口 良一

②「長州黒かしわ」(山口県長門市) 報告者: 深川養鶏農業協同組合 長尾 英樹

③「豊前本ガニ」(福岡県豊前市) 報告者: (有)職彩工房たくみ 尾崎 正利

・パネルディスカッション「販路開拓とブランド確立」

パネリスト: 大坪 素久 (株)紀ノ國屋 商品部(生鮮) 担当部長

白田 典子 (有)良品工房 代表

上記事例ご発表者

コーディネーター: 金子 和夫 (株)日本総合研究所 上席主任研究員 食と農林水産業の地域ブランド協議会幹事

基調講演講師

上原征彦



食と農林水産業の地域ブランド協議会 会長

明治大学専門職大学院 グローバル・ビジネス研究科教授

東京大学経済学部卒業、日本勧業銀行(現みずほ銀行)、(財)流通経済研究所、明治学院大学経済学部助教授、同教授、ペンシルヴェニア大学客員教授を経て、2004年より現職。専攻はマーケティング戦略論、流通論。食料・農業・農村審議会 会長(2007年7月4日まで)、食料供給コスト縮減検証委員会委員長を務めるなど、マーケティングの視点から農林水産業に対する提言を行う。主な著書に『経営戦略とマーケティングの新展開』、『マーケティング戦略論』、論文に『ブランドマーケティングと農商工連携』など。

事例発表者

前口良一

愛知県尾張農林水産事務所

愛知県稲沢市祖父江町は、「ぎんなん」の年間生産量が国内の約30%を占める日本一の産地である。生産者を主体に、愛知西農協、商工会、稲沢市役所が参加して、「祖父江ぎんなんブランド推進協議会」を設立。ぎんなんに携わる人々が一堂に会して生産、販売活動に取り組むことにより「祖父江ぎんなん」のブランド化と地域振興を目指す。



長尾英樹

深川養鶏農業協同組合

山口県の特産品づくりの一環として付加価値の高い地鶏が求められるなか、深川養鶏農業協同組合では、平成21年2月に県産地鶏の名称を「長州黒かしわ」として発表し、平成21年秋から山口県内で本格的に販売開始。数量(羽数)限定・高品質・高付加価値商品として組合の戦略的なトップブランド商品として位置づけることにより、既存商品を含む組合全体の商品のイメージアップと販売拡大を目指している。



尾崎正利

有限会社職彩工房たくみ

豊築漁業協同組合では、福岡県東部の豊前海(ぶぜんかい)で水揚げされるワタリガニのうち身入りの良いものを厳選し、「豊前本ガニ」として出荷。漁協による出荷基準や買い取り方式を定め、高単価での販売を目指すと共に、漁協直営食堂での飲食サービスを展開している。また、海区



パネリスト

大坪素久

株式会社紀ノ國屋 商品部(生鮮) 担当部長



1978年(株)紀ノ國屋に入社。鮮魚部門に配属。2年目から水産部門バイヤーに。

以後現在まで、チーフ・店長を歴任しながら一貫して生鮮部門のバイヤーとして企画・開発に携わる一方で、島根県を始め、佐賀・和歌山・高知・北海道等の地域産品開発に携わる。

白田典子

有限会社良品工房 代表



大手広告代理店を経て、マーケティング会社で商品開発に携わる。1994年に有限会社良品工房を設立。流通の現場を体験するなかで、消費者不在のものづくりを痛感し、2001年につくり手、売り手、買い手をつなげる“いいものプロジェクト”をスタート。地域の商品を販売しながら集めた消費者の声を届けようと、日本全国を駆け巡る。

パネルディスカッションコーディネーター

金子和夫

株式会社日本総合研究所 上席主任研究員



ファッションビジネスに従事し、1988年に(株)日本総合研究所に入社。マーケティングの手法を活用して、まちづくり、地域ブランドのプロジェクト等に多数取り組む。農林水産省知的財産戦略本部専門家会議委員、食と農林水産業の地域ブランド協議会幹事のほか、経済産業省地域中小企業サポーター、国土交通省地域振興アドバイザー、独立行政法人中小企業基盤整備機構地域資源活用アドバイザー等を務める。